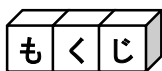


# 京都あぐい便り



近畿農政局地方参事官室  
(京都府担当)  
発行: 平成30年4月1日

写真: 京都御苑の桜(ヤマザクラ)



- P1・・・「農林水産業・地域の活力創造プラン」説明動画の配信開始について
- P2・・・平成29年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール  
第15回オーライ！ニッポン大賞
- P3・・・加工用野菜の生産に取り組む ニノ宮大地さん(京丹後市)
- P4・・・京都府農業の現状、地方参事官室(京都府担当)からのお知らせ

## 「農林水産業・地域の活力創造プラン」 説明動画の配信開始について

昨年12月に改訂された「農林水産業・地域の活力創造プラン」について広く知っていた  
ため4つの説明動画を配信しました。ここでは、その中で、新たなニーズに対応した  
「農地の取扱いの見直し」についてご紹介します。



今回見直す内容は？



- 1 水耕栽培、温度・湿度管理、収穫用ロボットの導入などの必要から、農業用ハウスの底地を全面コンクリート張りする時に、農地転用しないで行える仕組みをつくります。
- 2 相続時に登記をしていないため、所有者の全貌がわからない農地について、簡単な手続で農地バンクに貸せる仕組みをつくります。

→ 平成30年通常国会に関連法案を提出しています。

・農林水産省ホームページ「農林水産業・地域の活力創造プラン」説明動画  
[http://www.maff.go.jp/j/kanbo/katsuryoku\\_plan/index.html#a](http://www.maff.go.jp/j/kanbo/katsuryoku_plan/index.html#a)

## 平成29年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール

持続可能な農業の確立を目指し意欲的に経営や技術の改善に取り組んでいる農業者等を表彰し、その取組を紹介することによって、関係者の意欲と理解を深めることを目的に、平成30年3月14日(水)に開催した「近畿地域未来につながる持続可能な農業推進シンポジウム」において表彰しました。

京都府内では、GAP部門でool茶いづみ・みかの原碾茶グループ様、有機農業・環境保全型農業部門で京丹後森本アグリ株式会社様が近畿農政局長賞を受賞しました。

### GAP部門

ool茶いづみ・みかの原碾茶グループ  
(木津川市)

木津川市加茂町地域の茶農家を主体としたグループ。ASIAGAPの団体認証(構成員23名、経営面積83ha)を取得し、茶商と取引を行っています。GAP認証を取得している方の中で、近畿農政局管内屈指の経営規模。



工場内：整理整頓



工場内：危険箇所の啓発掲示

### 有機農業・環境保全型農業部門

京丹後森本アグリ株式会社  
(京丹後市)

集落のほ場34haを集約し、全筆で化学肥料・農薬の5割低減に加え、鉄コーティング湛水直播技術の導入、緩効性肥料、長期中干し、冬期湛水などを積極的に取り入れ、持続的な環境保全型農業に取り組む。



コウノトリの集まる田んぼ



古代米(赤米)の手植え体験

詳細→ <http://www.maff.go.jp/kinki/press/kankyo/180216.html>

## 第15回オーライ！ニッポン大賞

「オーライ！ニッポン大賞」は、都市と農山漁村を往来する新たなライフスタイルの普及や定着化を図るため、都市と農山漁村の交流活動に積極的に取り組んでいる団体、個人を表彰するものです。この度、綾部市の「古屋でがんばろう会」が審査委員長賞を受賞しました。

### 「古屋でがんばろう会」

綾部市にある集落「古屋(こや)」は、平均年齢90歳のおばあちゃん達と自治会長の4名が暮らす限界集落。住民の間で「自分たちの代で集落を終わらせたくない」という思いが高まり、10年前に一念発起し、近くの森で採れる栃の実を使って、お菓子等を開発・製造を始めました。

「古屋でがんばろう会」は、古屋の活動を支えるために設立された自主応援組織で、ボランティアを巻き込んだイベントの企画・実施をしています。交流人口は年間3,000人にもものぼり、おばあちゃん達の生きがいにもなっています。



詳細→ [https://www.kouryu.or.jp/information/20180305\\_293/](https://www.kouryu.or.jp/information/20180305_293/)

# 現場だより

## 加工用野菜の生産に取り組む

二ノ宮 大地さん(京丹後市)



二ノ宮 大地さん

二ノ宮さん(21歳)は年小の頃から祖父の農業を手伝ってこられ、高校卒業時に祖父から「丹後農業実践学舎2期生募集」の案内書を手渡され入学することを決意されたそうです。

農業実践学舎を卒業してから2年が過ぎ、3haの農地で、加工用のキャベツ、かぼちゃ、かんしょ、大かぶ、にんじん等を生産しています。

独立した1年目は上手いかず、その原因を考え、改善したことで、2年目は収穫量を増やすことが出来たそうです。

出荷先からはもっと増やして欲しいと依頼されているそうです。

丹後農業実践型学舎は卒業後も栽培技術や農地等について相談できる組織で、大変感謝していると話されていました。



育苗中のキャベツ

収穫後に連続して次の作物を作付けするため、連作障害等が心配なので、あと2ha増やして5haに規模拡大したいと話されていました。

二ノ宮さんの益々のご活躍を期待します。



建設中のハウス



米  
野菜  
工業農作物  
乳用牛  
鶏

資料：農林水産省HP「平成28年市町村別農業産出額（推計）」

